

令和5・6・7年度 奥州市教育委員会指定 学校公開研究会

研究主題

自分の考えをもち、
適切に表現しようとする子どもの育成

～国語科における考えの共有を目指した指導を通して～

学習指導案集



奥州市立胆沢第一小学校

第1学年 国語科学習指導案

日 時 令和7年11月19日(水) 5校時
 児 童 1年1組 29名
 指導者 関向 恵美

1 単元名 くらべてよもう

2 学習材名 「どうぶつの赤ちゃん」(光村図書 1年下)

3 単元の目標

- (1) 共通、相違、事柄の順序など、情報と情報の関係について理解することができる。 [知識及び技能] (2)ア
- (2) 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)オ
- (3) 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)カ
- (4) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

4 単元について

(1) 子どもの実態

子ども達は、これまでの説明文の学習を通して、「問い」と「答え」の文があることを知り、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えたり、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、写真や挿絵と叙述をつないで内容を読み取ったりする学習を進めてきた。また、つぼみクイズ作りや、海の生き物の紹介・自動車図鑑作りを通して、友達とわかったことや考えたことを交流することの楽しさを味わってきた。自分が伝えたいことをはっきりさせ、的確に伝えるために大事な言葉や文を見付けようとする意欲的な姿が見られる一方、言葉を探せなかったり、読み取ったことをうまく言葉で伝えられなかったりするなど、個人差が見られる。

(2) 学習材について

本教材は、冒頭に二つの問いが示され、続けてそれに対する答えが説明されるという「じどう車くらべ」と同じ構造になっている。ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんの「生まれたばかりの様子」「大きくなっていく様子」についてどちらの赤ちゃんも同じ観点で説明されており、成長していく様子が時間的順序に沿って分かりやすく書かれている。説明の観点が揃っているのも、特徴の違いなどを他の動物と比べて読み、互いの思いを分かち合うのに適した教材である。

(3) 指導にあたって

単元に位置付ける言語活動

「動物の赤ちゃんの驚いたことを紹介しよう」と設定し、自分の驚きを相手に伝えるため、大事な言葉や文を見付け、紹介カードで伝え合う。[思考力、判断力、表現力等] C(2)ウ

生まれたばかりの様子は「大きさ」「目や耳の様子」「親と似ているか」の観点で、大きくなっていく様子は「移動能力」「お乳を飲む期間」「餌をとる時期」という観点で比較する。それぞれの観点ごとに、違いが分かるように、大事な言葉や文を選び出す力を身につけることができるようにする。その後、興味をもった動物の赤ちゃんについて、自分が一番驚いたことを紹介するカードを作り、友達のカードと比べて読み、感想を交流することで、感じたことや分かったことを共有する楽しさを実感できるようにする。

① 手立て1 目的をもって学びに向かう工夫

ア 既習の学習を掲示し、学習を通して身に付いた力の児童の気づきを共有し、学習内容への関心を高める。

イ どうぶつの赤ちゃんの学習を通してどのようなことができるようになりたいのかを考える中で「どうぶつの赤ちゃん紹介カードを作って、自分が調べたどうぶつの赤ちゃんについて驚いたことを伝えたい」など学習への思いを醸成する。

② 手立て2 言語活動の質を高める工夫

ア 動物の赤ちゃんの様子について、観点ごとに大事な言葉や文を見付け、挿絵と対応させたり、動作化したりしてまとめ、他の動物との違いを考える。

イ 興味をもった動物について、どのようなことに驚いたのか、紹介したいわけをはっきりさせたうえで紹介カードを作り、友達と伝え合い、互いの感じ方や考え方を認め合う。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 共通、相違、事柄の順序など、情報と情報の関係について理解している。(2)ア	① 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。C(1)オ ② 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。C(1)カ	① 積極的に文章を読んでどうぶつの赤ちゃんについて思いや考えをもち、学習の見通しをもって、本から得たことを友達に知らせようとしている。

6 単元の指導計画 (全 10 時間扱い)

次	時	学習活動	◆研究に関わる手立て ・指導上の留意点	【評価】【評価方法】
とらえよう	1	○ 題名から内容を予想する。 ○ 内容の大体を知り、問いを確認する。 ○ 既習の学習の中から活かせるような学習方法を考え、学習の見通しをもつ。	・ どうぶつの赤ちゃんの写真を提示し、体験や知っていることと結び付けながら本文を読み、内容の大体を知り、学習の見通しをもつことができるようにする。 ◆ どうぶつの赤ちゃんの学習を通してどのようなことができるようになりたいのかを考える中で「どうぶつの赤ちゃん紹介カードを作り動物の赤ちゃんのひみつを伝えたい」など学習への思いを醸成する。 (手立て1)	【思考①】 どうぶつの赤ちゃんの文章を読んで、もっと知りたいと思ったことや、学習を通して学びたいことなどの思いをもとうとしているか確認する。 【発言・記述】
	2	○ 「問い」が二つあることから文章全体の構成を捉える。 ○ 「生まれたばかりの様子」「大きくなっていく様子」それぞれの比較の観点を確認する。	・ ライオンとしまうまの赤ちゃんの説明に共通している言葉を探すことで、「生まれたばかりの様子」も「大きくなっていく様子」もどちらの動物も同じ観点で説明されていることに気づき、内容の大体を捉えることができるようにする。	【知識①】 ライオン・しまうまの赤ちゃんの、どこが似ていて、どこが異なっているのかを考えることができたか確認する。 【ワークシート】 【思考①】 ライオンとしまうまの赤ちゃんの様子の違いに気付いて、体験と比べながら違いをはっきりさせ、感想を書いているか確認する。 【ワークシート・記述】
ふかめよう	3	○ ライオンとしまうまの赤ちゃんの「生まれたばかりの様子」を比べながら読む。	・ 比べている観点を意識して、それぞれの赤ちゃんの様子を読み取ることができるようにする。	
	4	○ ライオンとしまうまの赤ちゃんの「大きくなっていく様子」を比べながら読む。	・ 前時の「生まれたばかりの様子」の学習を元に、比べている観点を意識して、それぞれの大きくなる様子を読み取ることができるようにする。	
	5	○ ライオンとしまうまの赤ちゃんを比較し、思ったことや考えたことを書く。	・ 観点に沿ってライオンとしまうまを比較し、違いを考え、驚いたことをまとめることができるようにする。	
	6	○ カンガルーの赤ちゃんを、ライオンやしまうまの赤ちゃんとは比べながら読む。	・ 前時までの学習を活かして同じ観点に沿って書かれていることを捉えることができるようにする。	
まとめよう・ひろげよう	7	○ 自分が紹介したい動物の赤ちゃんについて書かれた本から、紹介するために必要な言葉や文を書き出す。	・ 選んだ動物を伝えたいわけをはっきりさせることで、紹介カード作りの言葉や文を選ぶことができるようにする。 ◆ 興味をもった動物について、どのようなところに驚いたのか、紹介したいわけをはっきりさせたうえで、紹介カードを作り友達と伝え合い、互いの感じ方や考え方を認め合う。(手立て2)	【態度①】 積極的にどうぶつの赤ちゃんについて書いてある本を読み、自分が選択した本に書かれたどうぶつの赤ちゃんの様子について驚いたことを友達に紹介しようとしているか、確認する。 【観察・記述】 【思考②】 友だちの紹介カードを読み、選んだ動物のどこに驚いたのか、感じたことや分かったことを共有しているか確認する。 【ワークシート】
	8	○ 書き出した内容をもとに、紹介カードを作る。	・ 一番驚いた動物について書き出した観点ごとにまとめ、説明する文章を書くことができるようにする。	
	9	○ 文章を完成し、友達と読み合う。	・ 文章を読み合い、動物を選んだわけと比べることで文章のよさに気付くことができるようにする。	
	10	○ 単元の学習を振り返り、身に付けた力を確認する。	・ 「どうぶつの赤ちゃん」の学習を通して身に付けたこと、今後の学習に活かしたいことをまとめ、振り返ることができるようにする。	

7 本時の指導

(1) 目標

文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。

(2) 本時の評価規準

文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。【思考・判断・表現①】

具体的な子どもの姿	Bに至るための支援
どうぶつの赤ちゃんの文章を読んで、もっと知りたいと思ったことや、学習を通して学びたいことなどの思いをもとうとしている。	・ 動物について知っていることを発表したり、これまでの説明文の学習で学んできたことを振り返ったりし、動物の赤ちゃんのことを知りたいという思いをもつことができるようにする。
授業での姿 じどう車くらべのどの力を使ったらいいかな。動物の赤ちゃんの秘密を伝えたいな。紹介カードを作ってみたいな。	

(3) 展開

	学習活動 ・ 子どもの反応	◆研究に関わる手立て ・ 指導上の留意点 評価 [評価方法]
導入 10分	- 既習の学習を確認する。 - 問いと答えのあるつぼみクイズを作ったよ。 - 大事な言葉や文を抜き出してまとめてカードにし、自動車図鑑を作ったよ。 - 動物について知っていることを紹介し合う。 - パンダを飼っているよ。 - さるを見たことがあるよ。	- 今までの説明文の学習を振り返り、できるようになったことを確認する。 - 生活科の体験や、今までの生活経験を想起できるようにする。
展開 30分	- ライオン・しまうま・カンガルーの赤ちゃんの写真を見て、生まれたばかりの様子を予想する。 - 範読を聞き、予想と合っていたか確認する。 - 想像通りだったところ、想像と違ったところを話し合う。 - しまうまの赤ちゃんは、お母さんに似ているところが多いけど、ライオンの赤ちゃんはあまり似ていない。 - 問いは何か考え、問いが「じどう車くらべ」同様、2つあることに気付く。 「どうぶつの赤ちゃん」の学習を通して、どんなことができるようになりたいか考える。 - 本から言葉を探したい。 - いろいろなどうぶつの赤ちゃんがお母さんに似ているかもっと知りたい。 - どうぶつの赤ちゃんのびっくりしたことについて知らせたい。 - クイズを考えたい。 - 今後の学習予定を知る。	- 予想と同じだったこと、違ったこと、驚いたこと等を発表し、意欲を引き出すようにする。 - 動物によって生まれたばかりの様子だけでなく、大きくなる様子も違うことに目を向けることで、誰かに知らせたいという思いをもてるようにする。 ◆ 動物の赤ちゃんのどのようなことに驚いたのか、わけをはっきりさせたいうえて紹介カードを作るために、どうぶつの赤ちゃんの話を読んでいく必要があることに気付くようにする。(手立て2) ・ じどう車くらべと同じ文章構成になっていることに気づき、どうぶつの赤ちゃんも観点を考えれば自分たちでも他の動物の赤ちゃんについて紹介する文が書けそうだと意欲がもてるようにする。 【思考・判断・表現 ①】 【観察・発言】
終末 5分	学習のふり返しをし、次時の見通しをもつ。	どうぶつの赤ちゃんの、一ばんおどろいたことをしょうかいしよう。 ◆ 分かったことやこれから頑張りたいこと、友達のをさを視点にして振り返りをするにより、「紹介カードを作るために読んでいく」ことへの子どもたちの高まりゆく気持ちを後押しする。(手立て1)
【期待する振り返りの例】 ・ もっとどうぶつの赤ちゃんについて知りたい。 ・ じどう車くらべの学習を思い出して言葉を見付けたい。 ・ 紹介カードを作っておうちの人や新1年生に驚いたことを紹介したい。		

第2学年 国語科学習指導案

日 時 令和7年11月19日(水) 6校時

児 童 2年1組 30名

授業者 千田 博子

1 単元名 だいじなことばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう

2 学習材名 「ロボット」(光村図書 2年下)

3 単元の目標

- (1) 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。 [知識及び技能] (3)エ
(2) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)ウ
(3) 文章を読んで、感じたことや分かったことを共有することができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)カ
(4) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

4 単元について

(1) 子どもの実態

子ども達は、これまでに「たんぼぼのちえ」では、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えたり、賢いと思うたんぼぼの知恵を伝え合ったりする学習を行ってきた。「どうぶつ園のじゅうい」では、毎日の仕事とその日の特別な仕事を書かれた段落を読み取り、筆者の構成の工夫を理解することができた。また、自分の身の回りのことと比べて考えたことや感じたことを表現する活動にも取り組んできた。

しかし、大体の内容を読み取る力や書く速さ、言語事項についての理解には個人差が見られる。

(2) 学習材について

本教材は、全5段落で構成されており、「初め」の第1段落に2つの問いが明確に記されている。「中」の第2段落から第4段落までは、3つのロボットが紹介されており、「問い」についての「答え」を探しながら読むことを通して、3つの要素である「どんなロボットか」「どんなときに助けてくれるか」「何をして助けてくれるか」等の重要な語や文を選び出すことができる。また、「終わり」の第5段落では、新しいロボットが次々と考案されており、いずれも私たちを助けるものであるとまとめている。「どんなロボットがあればよいか、どんなときに、わたしたちをたすけてくれるのか」と読者に問いかけており、筆者のメッセージが強く伝わる文章になっている。

「ロボット」は、商業施設や飲食店等で目にする機会が増えてきており、児童にとって興味や関心がもちやすく、感じたことや分かったことを伝えるのに分かりやすい教材であるといえる。

(3) 指導にあたって

単元に位置付ける言語活動

自分が考えた、「あったらいいなと思うロボット」を紹介し、友達のロボットについて感想を伝え合う。
[思考力、判断力、表現力等] C(1)カ

本単元では、教材文から大事な言葉を探して書き出すという活動を通して、文章の中の重要な語や文を選び出す力を身に付けることができるようにする。また、あったらいいなと思う新しいロボットについて考えを伝え合うことで、そこから分かったことや思ったことを他者と共有するおもしろさ、大事さを実感できるようにする。

① 手立て1 目的をもって学びに向かう工夫

ア 「たんぼぼのちえ」や「どうぶつ園のじゅうい」との違いに気付かせ、「ロボット」では、問いについての答えを見付けていくこと、単元のゴールは「あったら助かるな」と思うロボットを紹介することを確認し、目的意識をもって取り組めるようにする。

イ 単元のゴールに向かって、学習活動の内容や前時との自分の取組を比較し、学習を振り返ることで、学びや変容を実感できるようにする。

② 手立て2 言語活動の質を高める工夫

ア どんなロボットがあったらいいのか、理由をはっきりさせたいうえで、要素にそって紹介カードを作り、友達と伝え合うことができるようにする。

イ 考えを深めるために、「どんなロボットか」「どんなときに助けてくれるか」「何をして助けてくれるか」という3つの要素に視点をおき、友達のロボットについて感想を伝え合うことができるようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ	① 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。C(1)ウ ② 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。C(1)カ	① 進んで文章を読んで、感じたことや分かったことを共有し、あったらいいなと思うロボットについて説明しようとしている。

6 単元の指導計画（全 13 時間扱い）

次	時	学習活動	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点	【評価】[評価方法]
とらえよう	1 ・ 2	○ どんな内容が書かれた文章かを予想し、発表し合う。 ○ 既習事項や新出漢字の確認をする。 ○ 初発の感想や考えてみたい問いを交流する。 ○ 単元のめあてを定め、学習計画を立てる。	・ 既習事項を想起しながら、ロボットの写真や動画などを見ることで、本文の内容に興味をもつことができるようにする。 ◆ 「たんぼぼのちえ」や「どうぶつ園のじゅうい」との違いに気付かせ、「ロボット」では、問いについての答えを見付けていくこと、単元のゴールは「あったらたすかるな。」と思うロボットを紹介することを確認し、目的意識をもって取り組めるようにする。（手立て1）	
	3 ・ 7	○ ロボットについて、どのような説明をしているのか確かめる。 ○ どんなロボットがあり、どんなときに助けてくれるかを確かめ、大事な言葉を表に書き出す。	・ 問いの文に着目することで、本教材文におけるロボットの定義など大事な言葉を考えて選び出せるようにする。	
まとめよう	8 ・ 9 ・ 10 本時	○ 「もっと読もう」と併せて読み、これからどんなロボットがあったらよいと思うかをまとめる。 ○ 考えたことを友達と伝え合う。	・ 「どんなロボットか」「どんなときに助けてくれるか」「何をして助けてくれるか」という要素を示すことで自分の考えをまとめられるようにする。 ・ 友達の考えたことに対して、よいと思ったことなど、感想カードで伝え合うようにする。 ◆ どんなロボットがあったらいいのか、理由をはっきりさせたいので、要素にそって紹介カードを作り、友達と伝え合う。（手立て2）	【思考①】自分の考えたロボットを、3つの要素に沿って紹介カードに書いているか確認する。 [発言・記述]
	11 ・ 12	○ 教科書P96「この本読もう」を参考に、ロボットについて書かれた本を読む。 ○ あったら助かりそうなロボットを各自で選び、友達に説明する。	・ 書いたものを友達と読み合い、同じだと思ったことを伝え合うようにする。 ◆ 選んだ理由について、「どんなロボットか」「どんなときに助けてくれるか」「何をして助けてくれるのか」という要素を用いて伝え合う。また、友達の選んだ理由に着目して聞き合う。（手立て2）	【思考②】どんなロボットがあったらいいか、友達と伝え合い、要素についての互いの思いや考えを共有しているか確認する。 [観察・記述] 【知識①】ロボットについて書かれた本を選んで読み、知りたい情報を得ようとしているか確認する。 [観察・記述] 【態度①】知らせたいロボットについて説明し合おうとしているか確認する。 [観察・発言]
ひろげよう	13	○学習を振り返る。	◆ 単元のゴールに向かって、学習活動の内容や前時との自分の取組を比較して、学習を振り返ることで、学びや変容が実感できるようにする。（手立て1）	

7 本時の指導

(1) 目標

文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。

(2) 本時の評価規準

文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。【思考・判断・表現①】

具体的な子どもの姿	Bに至るための支援
自分の考えたロボットを「どんなロボットか」「どんなときに助けてくれるか」「何をして助けてくれるか」の3つの要素に沿って紹介カードに書いている。	・ 自分の考えたロボットについて「どんなロボットか」「どんなときに助けてくれるか」「何をして助けてくれるか」の3つの要素で書けるように、既習の掲示等を参考にしたり、絵に書き込んだ言葉を参考にしたりできるようにする。
授業での姿 わたしのロボットは、畑の野菜に水をかけてくれるロボットです。とても暑くて外での仕事が危険な日にも、ちょうどよいくらいの水をかけてくれます。	

(3) 展開

	学習活動 ・ 子どもの反応	◆研究に係わる手立て ・ 指導上の留意点 評価 [評価方法]
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 考えたロボットについて、感そうをつたえ合おう。	・ 考えたロボットを特徴ごと（空を飛ぶ・事故を防ぐ等）にグループ分けする。
展開 33分	3 自分が考えたロボットについて要素を紹介カードに書く。 「どんなロボットか」 「どんなときに助けてくれるか」 「何をして助けてくれるか」 4 考えたロボットについて友達と伝え合おう。 - わたしが考えたのは、勉強を教えてください。宿題が分からない時に助けてくれます。分からない問題のやり方を教えてください。 5 友達からの感想カードを見たり、発表を聞いたりして、もう一度自分の紹介カードを見直す。 〇〇さんの「どんなときに助けてくれるのか」が、分かりやすかったので、真似したいと思いました。	・ 要素について確認し、既習の学習を参考にしたり、席が近い人と話しながら考えたりしてもよいことを全体で確かめる。 ・ 同じグループで考えたロボットについて伝え合い、感想をカードに書いて伝えるようにする。 ・ 違うグループの友達と考えたロボットについて伝え合い、感想をカードに書いて伝えるようにする。 ◆ どんなロボットがあつたらいいのか、理由をはっきりさせたいので、要素に沿って紹介カードを作り、友達と伝え合う。（手立て2） 【思考・判断・表現①】 [発言・記述]
終末 7分	6 学習の振り返りをする。	・ 今日の学習で自分ができたことや、次にやってみたいことを振り返り、学びを実感できるようにする。 ◆単元のゴールに向かって、学習活動の内容や前時との自分の取り組みを比較して、学習を振り返ることで、学びや変容が実感できるようにする。（手立て1）
[期待する振り返りの例] ・ 紹介カードに、3つのことを全部書くことができてよかった。 ・ 感想カードを使ったから、友だちのロボットの大事なことが分かってよかった。 ・ 自分が考えたロボットが、あるのかどうか調べてみたい。		

第3学年 国語科学習指導案

日時 令和7年11月19日(水) 5校時

児童 3年1組 34名

授業者 工藤 裕美子

1 単元名 読んで考えたことをつたえ合おう

2 学習材名 「ありの行列」(光村図書 3年下)

3 単元の目標

- (1) 指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。〔知識及び技能〕(1)カ
- (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。〔思考力、判断力、表現力〕(1)オ
- (3) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。〔思考力、判断力、表現力〕(1)カ
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

4 単元について

(1) 子どもの実態

子ども達はこれまでに「こまを楽しむ」「すがたをかえる大豆」などの説明的な文章を読み、形式段落や「初め」「中」「おわり」の構成、事例の述べ方に注意して文章の内容を捉えることを学習してきている。文章の構成は捉えられるようになってきたが、中心となる語や文を見付けることがまだ難しい子どももいる。考えの形成においては、文章を読んでどう考えたかまとめるのに時間がかかる子どもも見られる。共有においては、感じ方は一人一人に違いがあることに気付いてきている。

(2) 学習材について

本教材は、「問い」「説明」「答え」の尾括型の文章構成となっている。「初め」で問いを、「中」は、ありの行列ができる理由を「実験・観察→考察・仮説→研究→研究結果」という流れで書いており、「終わり」に答えを示している。身近な「あり」を題材にしており、子どもは興味をもちながら文章を読み進めることができると思われる。また、子どもの興味や関心はそれぞれであるため、文章の着目する点や感想も違ってくことから、互いの感想を伝え合い、感じ方の違いに気付くのに適した教材といえる。

(3) 指導にあたって

単元に位置付ける言語活動

文章を読んで、興味をもったことやもっと知りたいことを伝え合う。〔思考力、判断力、表現力等〕(2)ア

段落相互の関係に着目しながら文章の内容を捉えるために、読み取る際は、それぞれの段落がどのような役割になっているかを押さえ、文章全体の構成を図にまとめる。また、文章の内容を正しく読み取れるように、接続語や指示語に着目して読み進める。文章を読んで自分の考えをまとめられるようにするために、興味をもったところ、それに対して考えたこと、もっと知りたいと思ったことの3つの観点と2つの着目点を示す。伝え合う際も、観点や着目点を意識することで、一人一人の感じ方の違いに気付くことができるようにする。

① 手立て1 目的をもって学びに向かう工夫

ア 意欲的に学習を進めることができるように、単元のゴールを「ぼく・わたしは〇〇博士！科学読み物を読んで、興味をもったことやもっと知りたいと思ったことを伝え合おう」とし、単位時間の学びがゴールに結び付いていることを確認しながら授業を進める。

イ 自分の学びを自覚し、次の学習に生かすことができるように、「分かったこと」「疑問に思ったこと」「もっと知りたいこと」「次にがんばりたいこと」などの視点で振り返り、振り返りシートに蓄積していく。

② 手立て2 言語活動の質を高める工夫

ア 文章を読んで感じたことや考えたことを文章にまとめられるように、「ありが行列を作る仕組み」「ウィルソンの実験や研究の進め方」に着目して考えをもたせるようにする。

イ 友だちの考えと自分の考えを比較しやすいように、色分けした感想カードやロイロノートを使って視覚化し、感じ方などの違いを全体共有する。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ	① 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(1)オ ② 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(1)カ	① 進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、「ありの行列」の学習を生かして、考えたことを伝え合おうとしている。

6 単元の指導計画（全8時間扱い）

次	時	学習活動	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点	【評価】【評価方法】
とらえよう	1	○ 文章を読んで興味をもったことについて交流する。 ○ 単元全体の学習の見通しをもつ。	◆ 「ぼく・わたしは〇〇博士！科学読み物を読んで、興味をもったことやもっと知りたいと思ったことを伝え合おう」という単元のゴールを設定し、目的をもって学習を進めるようにする。 (手立て1)	
ふかめよう	2	○ 問いと答えが、どの段落にどのように書かれているかを捉える。	・ 「答え」については、具体的に述べられている部分と抽象的に述べられている部分があることを確認する。	【知識①】指示する語句が何を指し示しているか、接続する語句からどのような順序になっているか、段落がどのようにつながっているかについて理解しているかを確認する。【記述・発言】
	3	○ 「中」をどのような順序で、どのように説明しているか読み取る。	・ 指示する語句や接続する語句に着目し、実験・観察、研究の順序を捉える。 ◆ 「分かったこと」「次にがんばりたいこと」などの視点で振り返り、振り返りシートに蓄積していく（手立て1）	
	4 ・ 5	○ ウイルソンの研究の進め方、ありが行列を作る仕組みについて、書かれていることを短くまとめる。	・ 行動を表す言葉や段落の初めの言葉、文末表現などに着目しながら、それぞれの段落が何について書かれたものかを確認する。	
まとめよう	6	○ 「ありの行列」と「もっと読もう」を読んで、考えたことを文章にまとめる。	・ 興味をもったこと(読んで分かったことを含む)、考えたこと、もっと知りたいと思ったことの3つの観点で書くようにする。 ◆ 「ありが行列を作る仕組み」「ウイルソンの実験や研究の進め方」に着目して考えをもたせるようにする。(手立て2)	【思考①】文章を読んで理解したことに基づいて、興味をもったことや考えたこと、もっと知りたいことなど、感想や考えをもっているか確認する。【記述】
ひろげよう	7 本時	○ 書いた文章を読み合う。	・ 興味をもったところ、考えたこと、もっと知りたいことの3観点に対して比べること、着目している点（ありがウイルソンか）を押さえることを確認する。 ◆ 友だちと自分の考えを比較しやすいように、色分けした感想カードやロイロノートを使って視覚化し、感じ方などの違いを全体共有する。 (手立て2)	【思考②】「ありの行列」を読んで感じたことや考えたことについて自分と友だちとを比べ、着目したことや考えたことに違いがあることに気付いていることを確認する。【記述・発言】 【態度①】進んで、科学読み物を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもち、「ありの行列」の学習を生かして考えたことを伝え合おうとしているか確認する。【記述・発言】
	時間外	○ ありや他の生き物や植物などの科学読み物を読んで考えたことを家庭学習でまとめる。		
	8	○ ありや他の生き物や植物などの科学読み物を読んで考えたことを友だちに伝える。 ○ 単元の学習を振り返る。	・ 前時と同じようにロイロノートを活用して、興味をもった文章を進んで読むことができるようにする。	

7 本時の指導

(1) 目標

文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。

(2) 本時の評価規準

文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。

【思考・判断・表現②】

具体的な子どもの姿	Bに至るための支援
「ありの行列」を読んで感じたことや考えたことについて自分と友だちとを比べ、着目したことや考えたことに違いがあることに気付いている。	色分けしている部分ごとに、自分の書いた文章と比較し、着目したところが「ありが行列を作る仕組み」か「ウイルソンの実験や研究の進め方」か考えるように促す。
授業での姿 - 私も液に興味をもった。でも、知りたいと思ったことが違う。 - 私と違って、ウイルソンの実験に興味をもったことにびっくりした。私も、二つも実験をするとよく分かっていいと思う。 〇〇さんが「もっと読もう」を読んで、液のことについてもっと知りたくなったと言っていたから、私も読んでみようと思った。	

(3) 展開

	学習活動 ・ 子どもの反応	◆研究に係わる手立て ・ 指導上の留意点 評価 [評価方法]
導入 3分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 友だちと自分の感想をくらべて読み、気づいたことをつたえ合おう。	・ あらかじめ、興味をもったことについて、ネームプレートをはり、着目したところを明らかにしておく。 ・ 着目している点が違っていることを確認する。
展開 34分	3 交流するときの観点を確認する。 4 交流する。 <1回目> 班ごとの交流 ・ 私も同じところに興味をもった。でも、もっと知りたいと思ったことが違った。 <2回目> 班以外の友だちの文章を読む。 ・ 私と違って、ウイルソンの実験に興味をもっていてびっくりした。私も二つの実験をしたのはいいと思った。 5 気付いたことを発表する。 ・ 「もっと読もう」を読んで、液のことをもっと知りたいと思っていていいと思った。	・ 興味をもったところ、そこから考えたこと、もっと知りたいことの3つの観点に対して比べること、着目している点（ありがウイルソンか）を押さえることを確認する。 ・ 1回目は、感じたことを直接言葉で伝え合う。 ・ 2回目は、自分と同じことに興味をもった友だち、異なることに興味をもった友だちの文章をロイロノートで読み、読んで感じたことを付箋にメモする。 ◆ 友だちの考えと自分の考えを比較しやすいように、色分けした感想カードやロイロノートを使って視覚化し、感じ方などの違いを全体共有する。（手立て2） 【思考・判断・表現②】 [発言・記述] ・ 着目した点、考えたこと、もっと知りたいことの違いについて全体で確認する。
終末 8分	6 学習を振り返る。	・ 全体で交流したことから改めて気付いたことや最後の活動に向けてがんばりたいことを振り返る。

【期待する振り返りの例】

- 同じえきに着目しても、考えたことが違っておもしろいと思った。
- 「もっと読もう」を読むことで、知りたいことやなるほどと思うことが増えてくるから、1冊だけでなく、他の本も読んでみたい。
- 次は、ハチ博士として、ハチの本を読んで興味をもったことをみんなに伝えたい。

第4学年 国語科学習指導案

日・時 令和7年11月19日(水) 6校時

児童 4年1組 19名

授業者 加藤 真紀

1 単元名 きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう

2 学習材名 「風船でうちゅうへ」(光村図書4年下)

3 単元の目標

- (1) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。
[知識及び技能] (2)ア
- (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。[思考力、判断力、表現力等] C(1)オ
- (3) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。
[思考力、判断力、表現力等] C(1)カ
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

4 単元について

(1) 子どもの実態

子ども達は、これまでに説明文「アップとルーズで伝える」で、筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係について理解し、感想や考えを伝え合う学習に取り組んだ。また「未来につなぐ工芸品」では、段落相互の関係を捉えながら、中心となる語や文を読み取り、筆者の考えとそれを支える理由を中心に要約し、リーフレットを作成する学習に取り組んできた。これまでの学習を通して、共有においては、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができるようになってきている。しかし、感じたことや考えたことを相手に伝えたり、文章に書き表したりすることを苦手としている子どももいる。

(2) 学習材について

本教材は、「話題提示」「説明」「筆者の主張」の尾括型の文章構成となっている。筆者が「宇宙へ行く物を自作したい」という不可能だと思われるような目標に対して、何度も試行錯誤を重ね、創意工夫しながら実現していく過程が説明されている文章である。読み手の興味に応じた様々な読み取り方が可能であり、自分が興味をもった内容を要約し、紹介文を読み合うことで、それぞれの感じ方のよさを認め合い、読みを深めることのできる教材である。

(3) 指導にあたって

単元に位置付ける言語活動

興味をもったところを中心に要約して紹介する文章を書き伝え合う。[思考力、判断力、表現力等] C(2)ア

興味をもったことを中心に要約し、紹介する文章を書くために、それぞれの子どもが興味をもったことから紹介したい内容を選択するように促す。そして、興味をもった内容が同じグループで、着目すべき言葉の観点や着目した言葉などについて話し合いながら紹介文を書く活動を設定する。一人一人の感じ方の違いやそれぞれの紹介文や考え方のよさについて気付くことができるように、紹介文が完成した後は、異なる興味の子もどうして互いに読み合い、感想を伝え合う場を設定する。

① 手立て1 目的をもって学びに向かう工夫

- ア 友だちの考えを知りたいという思いをもつことができるように、初発の感想や学習途中の振り返りをテキストマイニングで分析し、興味・関心が多いものや、自分が気付かなかった視点を提示する。
- イ 具体的な内容で学習を振り返ることができるように、振り返りや感想の視点を明確にする。

② 手立て2 言語活動の質を高める工夫

- ア 文章の構造や実験の「特徴」「結果」「筆者の考え」などの関係を捉えやすくするために、構造的な板書や掲示物を提示する。
- イ それぞれの感じ方の違いや考え方のよさについて気付くことができるように、学習場面に合わせた多様なグループ編成にする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	① 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。C(1)オ ② 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。C(1)カ	① 進んで、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って、要約して紹介する文章を書き伝え合おうとしている。

6 単元の指導計画（全8時間扱い）

次	時	学習活動	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点	【評価】【評価方法】
とらえよう	1	○ 教科書のリード文や題名を読み、風船で何をしようとしたのかを予想する。 ○ 「風船でうちゅうへ」を読み、「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。	・ 写真も手がかりに、一見不可能に見えることをどのように実現させていったのかと思わせ、筆者の考え方や取り組み方に関心を向けることができるようにする。	
	2	○ 興味をもったところがはっきりできるように文章の大体の内容を確かめる。	・ 「もっと読もう」を併せて読み、自分が最も興味をもったことを明確にする。 ◆ 友だちの考えを知りたいという思いをもつことができるように、初発の感想や学習途中の振り返りをテキストマイニングで分析し、興味・関心が多いものや、自分が気付かなかった視点を提示する。（手立て1）	
ふかめよう	3	○ 「初め」「中」「終わり」のまとまりを確かめ、「初め」と「終わり」から、興味に沿って大事な言葉や文を書き出す。	・ 「初め」「終わり」の対応関係を確かめる。 ◆ 具体的な内容で学習を振り返ることができるように、振り返りや感想の視点を明確にする。（手立て1） ◆ 興味を中心に共通するグループ構成にして、交流する。（手立て2）	
	4	○ 「中」を読んで、それぞれの風船や装置の特徴と、打ち上げた結果を捉える。	・ 「風船の数」「地上とつなぐひもの有無」「カメラの特徴」等の観点を示す。 ◆ 文章の構造や実験の「特徴」「結果」「筆者の考え」などの関係を捉えやすくするために、構造的な板書や掲示物を提示する。（手立て2）	
	5	○ 「中」を読んで、打ち上げた結果から筆者が考えたことを捉える。 ○ 「中」から、興味に沿って大事な言葉や文を書き出す。	・ 打ち上げた結果の原因と対策に分けて整理する。 ・ 教科書「言葉に着目しよう」を参考にするよう促す。	【知識①】打ち上げの結果から分かったことや、筆者が考えたことを正しく捉えていることを確認する。〔記述・発言〕
	6	○ 興味をもったことに沿って、要約する。 ○ 要約した文章を読み合う。	・ ロイロノートを活用して要約文を作成する。 ・ 友達と読み合い、興味をもったことによって、要約が違うことに気付かせる。	
まとめよう	7	○ 紹介文の構成を確かめる。 ○ 興味をもったことに沿って紹介文を書く。	・ 教科書「しょうかいする文の例」を参考に示す。 ・ 前時にまとめた要約を活用し、紹介文を作成する。	【思考①】自分が興味をもったことに沿って、紹介文を書いているか確認する。〔記述〕
ひろげよう	8 本時	○ グループで紹介文を読み合い、感想を伝え合う。 ○ 単元の学習を振り返る。	◆ 興味を中心に多様になるようにグループを構成して、交流する。（手立て2） ・ ロイロノートを活用して、友だちの紹介文を読むことができるようにする。 ・ 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返らせるとともに、「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を確認させる。	【思考②】紹介文を読み合い、それぞれの興味によって、要約や紹介のしかたが違っていることに気付いているか確認する。〔発言・記述〕 【態度①】文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、紹介する文章を伝え合おうとしていることを確認する。〔観察・記述〕

7 本時の指導

(1) 目標

文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。

(2) 本時の評価規準

文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。

【思考・判断・表現②】

進んで、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って、要約して紹介する文章を書き伝え合おうとしている。【主体的に学習に取り組む態度①】

具体的な子どもの姿	Bに至るための支援
紹介文を読み合い、それぞれの興味によって、内容や表現のしかたが違っていることに気付いている。	- 自分と友だちの紹介文と比較する際の視点を絞ることで、比較しやすくする。 - 色分けしたシートを基に書かれている内容を比較するように声掛けをする。 - いいなと思った言葉を見付けて、その理由を書いてもよいことを助言する。
授業での姿 - 自分と同じところに興味を持っているのに、要約が少し違うと思いました。こういうまとめ方もあるんだなと思いました。 - 興味をもったことが違うと、紹介の仕方に違いが出てくることが分かりました。 〇〇さんの紹介文は、それぞれの実験の結果が整理してまとめられていて、分かりやすいと思いました。	

(3) 展開

	学習活動 ・ 子どもの反応	◆研究に係わる手立て ・ 指導上の留意点 評価 [評価方法]
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 しょうかいする文章を比べて読み、気付いたことを伝え合おう。	・ あらかじめ、筆者の行動力について、挑戦心と粘り強さについて、実験のユニークさについてなどの興味の中心に沿ったグループ分けをしておく。
展開 32分	3 興味の中心によって多様なグループに分かれ、前時にまとめた自分の紹介文を発表し、感想を伝え合う。 4 全体で発表し、感想を伝え合う。 ・ 私と興味をもったところは同じだけど、感想がちがっていました。 ・ 〇〇さんが、失敗を次にいかす筆者の姿勢に興味をもって紹介文を書いたことが伝わりました。 ・ この紹介文は、実験について詳しく書いてあって、筆者が何をしたのか、よく分かる要約でした。	◆自分にはない見方や考え方に触れられるようにするために、興味の中心が多様になるようグループ構成し、交流する。 (手立て2) ・ それぞれの紹介文を比較するために、ロイロノートを活用して読み合えるようにする。 ・ 紹介文を読む前に、発表者が何に興味をもったのかを話すことで、聞き手が心構えをもって聞くことができるようにする。 ・ 感想を伝える際の観点(文章の相違点・要約文のよい点・興味に沿って書かれているか)を示すことで、それらを意識しながら感想を聞き、友達のよさや自分との違いに気付くことができるようにする。 【思考・判断・表現②】 [発言・記述]
終末 8分	5 単元の学習を振り返る。	・ 「ふりかえろう」の3つの観点を基に、この単元の学習でどのような力が付いたのかを振り返る。 ・ 「この本、読もう」で紹介されている本に触れ、読書の幅を広げる観点を確かめる。 【主体的に学習に取り組む態度①】 [観察・記述]

【期待する振り返りの例】

- 興味をもったことが違うことで、要約で取り上げる言葉や文も違ってくることが分かりました。
- 他の人の感想などを読むときには、その人がどんなことに興味があるかを考えながら読もうと思いました。
- 紹介する文章を書くときには、自分が興味をもったことを中心に言葉を選んで書けばよいことが分かりました。

第4学年 国語科学習指導案

日 時 令和7年11月19日(水) 6校時

児 童 4年2組 18名

授業者 高橋 寛之

1 単元名 きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう

2 学習材名 「風船でうちゅうへ」(光村図書4年下)

3 単元の目標

- (1) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。
[知識及び技能] (2)ア
- (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。[思考力、判断力、表現力等] C(1)オ
- (3) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。
[思考力、判断力、表現力等] C(1)カ
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

4 単元について

(1) 子どもの実態

子ども達はこれまでに、4年生の「アップとルーズで伝える」で筆者の考えを読み取り自分の考えを発表する学習に取り組んだ。また、「未来につなぐ工芸品」では、段落相互の関係を捉えながら、中心となる語や読み取った情報を整理、要約することに取り組んだ。これまでの学習を通して、文章を読むことについては理解することはおおむねできるが、感想や考えをもって書いたり発表したりすることにはできる児童とできない児童の二極化が顕著になっている。

(2) 学習材について

本教材は、風船を使って、宇宙と地球の撮影に成功するまでの過程が書かれている。風船を使って教科書に載っている写真を撮影できたということへの驚き、試行錯誤を重ねて問題解決を図る筆者の姿勢など、子どもの興味を引く文章である。読み手の興味に応じた様々な読み取り方が可能であり、自分が興味をもった内容を要約することで、それぞれの感じ方のよさを認め合い、読みを深めることのできる教材である。

(3) 指導にあたって

単元に位置付ける言語活動

興味をもったところを中心に要約して紹介する文章を書き伝え合う。[思考力、判断力、表現力等] C(2)ア

文章を読んで教材文を紹介する文章を書くために、それぞれの子どもが興味をもったことから紹介したい内容を選択するように促す。そして、興味をもった内容が同じグループで、着目すべき言葉や着目した言葉等について話し合いながら要約し、紹介文を書く活動を設定する。紹介文が完成した後は、選択した興味が同じグループで読み確かめる。そして、異なる興味の子ども同士で互いに読み合い感想を伝え合う。そうすることで、子ども一人一人の感じ方の違いや紹介文のよさに気付くことができると考える。

① 手立て1 目的をもって学びに向かう工夫

ア 興味・関心や目的を意識して文章を読み、他者に伝えようとする意欲を高めるようにするために学習課題を明確にする。

イ 具体的な内容で振り返ることができるように、振り返りや感想の視点を明確にする。

② 手立て2 言語活動の質を高める工夫

ア 文章から必要な情報を的確に抜き出し、要点を整理して伝えることができるようにするために観点を提示する。

イ 文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつことができるようにするために、興味・関心の中心が共通するグループ編成にして文章を読み確かめ合う。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 考えとそれを支える理由や事例、全体となる情報と情報との関係について理解している。(2)ア	① 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 C(1)オ ② 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。 C(1)カ	① 進んで、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って紹介する文章を書き伝え合おうとしている。

6 単元の指導計画（全8時間扱い）

次	時	学習活動	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点	【評価】〔評価方法〕
とらえよう	1	○ 教科書のリード文や題名を読み、風船で何をしようとしたのか予想する。 ○ 「風船でうちゅうへ」を読み、「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。	・ 写真も手掛かりに、教材文への興味・関心を高める。 ◆ 興味・関心や目的を意識して文章を読み、他者に伝えようとする意欲を高めるようにするために学習課題を明確にする。（手立て1） ・ 何に興味をもったか、どうしてかを考えることで問いや課題意識を引き出し、興味に沿った要約を行って、紹介する文章を書くという学習につなげる。	
	2	○ 興味をもったところをはっきりできるように文章の大体の内容を確かめる。	・ 「もっと読もう」も併せて読み、自分が最も興味をもったことを明確にする。	
ふかめよう	3	○ 「初め」「中」「終わり」のまとまりを確かめ、「初め」と「終わり」から興味に沿って大事な言葉や文を書き出す。	・ 「初め」「終わり」の対応関係を確かめる。 ・ 興味を中心に同じグループ同士で交流する。 ◆ 具体的な内容で振り返ることができるように、振り返りや感想の視点を明確にする。（手立て1）	【知識①】打ち上げの結果から分かったことや、筆者が考えたことを捉え、自分の興味に沿って大事な言葉や文を書き出しているか確認する。 〔発言・記述〕
	4	○ 「中」を読んで、風船の装置の実験の特徴と打ち上げた結果を捉える。	・ 打ち上げた結果の原因と対策に分けて整理する。また、観点として「風船の数」「地上とつながりもの有無」「カメラの特徴」を示す。	
	5	○ 「中」を読んで、打ち上げた結果から筆者が考えたことを捉える。 ○ 「中」から、興味をもったところを選び、大事な言葉や文を書き出す。	・ 教科書「言葉に着目しよう」を参考にすよう促す。 ◆ 文章から必要な情報を的確に抜き出し、要点を整理して伝えることができるようにするための観点を提示する。（手立て2）	
	6	○ 興味をもったことに沿って、要約する。 ○ 要約した文章を読み合う。	・ 要約の方法を明示し、どのように重要な情報を抜き出して伝えるか明確にする。 ・ 友達と読み合い、興味をもったことによって、要約が違うことに気付かせる。	
まとめよう	7 本時	○ 紹介文の構成を確かめる。 ○ 興味をもったことに沿って紹介文を書く。 ○ 興味・関心の中心が共通するグループ同士に分かれて、書いたことを読んで確かめ合う。	・ 教科書「しょうかいする文章の例」を参考に示す。 ・ 前時にまとめた要約を活用し、紹介文を作成する。 ◆ 文章を読んで理解したことに基いて感想や考えをもつことができるようにするために、興味・関心の中心が共通するグループ編成にして文章を読み確かめ合う。（手立て2）	【思考①】自分が興味をもったことに沿って、紹介文を書いているか確認する。〔記述〕
ひろげよう	8	○ グループで紹介文を読み合い、感想を伝え合う。 ○ 単元の学習を振り返る。	・ 興味の中心が多様になるようグループを編成して、交流する。 ・ 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返らせるとともに、「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を確認させる。	【思考②】紹介文を読み合い、それぞれの興味によって、内容や表現のしかたが違っていることに気付いているか確認する。〔発言・記述〕 【態度①】進んで紹介する文章を伝え合おうとしているか確認する。 〔観察・記述〕

7 本時の指導

(1) 目標

文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつことができる。

(2) 本時の評価規準

文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもっている。【思考・判断・表現①】

具体的な子どもの姿	Bに至るための支援
文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつて紹介する文を書く。	- 前時にまとめた要約の文を見直し、何の部分に使えるかを明確にする。 「しょうかいする文章の例」を参考にすることで、自分が書きたい紹介文の構成を考えるように促す。 - 書き出しの例を示す。
授業での姿 「風船でうちゅうへ」は、筆者の岩屋圭介さんが何度も失敗してもあきらめずに風船を使ってうちゅうをさつえいした話です。 (中は第5時の要約) わたしは、筆者があきらめずにチャレンジしたことに感動しました。わたしも好きなことを見付けて、あきらめずにやっていきたいです。	

(3) 展開

	学習活動 ・ 子どもの反応	◆研究に係わる手立て ・ 指導上の留意点 評価[評価方法]
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 自分のきょうみにそって、「風船でうちゅうせんへ」をしょうかいする文を書こう。	
展開 32分	3 紹介する文の各段落の構成や書き方を確認する。 「初め」…何の話かを紹介 「中」…読んで面白かったことや感動したところを要約 「終わり」…本文を読んだ感想 4 「風船でうちゅうへ」の紹介文を書く。	「しょうかいする文章の例」を参考に、構成や書き方を確かめる。 「何の話か」「要約」「感想」のそれぞれのつながりを考えて、前時にまとめた要約の文を修正したり、「何の話」「感想」の内容を考えたりするよう確認する。 - 自分が興味をもったことを家の人に紹介することを意識して書き始められるようにする。 【思考・判断・表現①】[記述] - 文字数の目安は400字程度であるが、実態に応じて進める。 - 書けない子どもには、本文で興味をもったところがどこかを具体的に聞いてまとめさせる。また、書き出しを示したり、言葉のつながり方をアドバイスしたりする。全体で共有したほうがよい内容の場合には、取り上げて全体に伝える。 ◆ 文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつことができるように、興味・関心の中心が共通するグループ編成にして文章を読み確かめ合う。(手立て2)
終末 8分	6 学習の振り返りをする。 7 次時の見通しをもつ。	◆ 具体的な内容で振り返ることができるように、振り返りの視点を明確にする。(手立て1) 次回はグループで紹介文を読み合うことを伝える。
[期待する振り返りの例] - 紹介する文を書くときには、自分が興味をもったことを中心に言葉を選んで書くことを学びました。 - 興味をもったことが同じでも、紹介文で取り上げた言葉や文が違ってくるのが分かりました。		

第5学年 国語科学習指導案

日 時 令和7年11月19日(水) 5校時
 児 童 5年1組 18名
 授業者 佐々木 縁

1 単元名 事例と意見の関係をおさえて読み、考えたことを伝え合おう

2 学習材名 「想像力のスイッチを入れよう」(光村図書 5年)

3 単元の目標

- (1) 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。〔知識及び技能〕(1)カ
- (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ
- (3) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)カ
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

4 単元について

(1) 子どもの実態

子どもたちは、「見立てる／言葉の意味が分かること」では、文章の要旨を捉えて、筆者の主張について考えたことをまとめる学習をしてきた。その際、要旨を捉える際に必要なことや、論説文の構造に着目し、筆者の伝え方の工夫を見付けた。お互いの考えを読み合い感想をもったが、自分の考えを広げることまでは至っていない。また、「新聞を読もう」では、メディアの一つである新聞の作りや工夫を知り、読み方について学んだ。

(2) 学習材について

本教材は、メディアから発信される情報を正確に受け止めるために必要な努力について、複数の事例を挙げて考えを述べている。子どもたちにとって身近な事例を挙げ、比喩を用いながら主張を展開している双括型の説明文である。それぞれの事例と意見の関係を押さえたうえで、実感的な理解を図っていく。「想像力のスイッチ」である四つのキーワードを意識することは、これからの社会で主体的・批判的に情報を読み解くうえで重要になってくる。また、「もっと読もう」で、メディアとの付き合い方を見直し、考えをまとめる手掛かりとしたい。

(3) 指導にあたって

単元に位置付ける言語活動

メディアとのよりよい関わり方について考えたことを伝え合う。〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)ア

メディアとの関わり方について、今の自分の関わり方を自覚し、単元の終末でまとめた自分の考えと比較できるようにする。自分の考えをまとめる際には、「想像力のスイッチ」について理解したこと、それを踏まえてメディアとの関わり方について考えたこと、またそう考えた根拠となる経験や知識の3つの観点からまとめる。また、ICTを活用してまとめ、友達との交流の際には、それを見せ合いながら、考えを伝え合う活動を設定する。単元を通して自分の考えの変化に気付いたり、友達の考えと比較したりすることを通して、自分の考えを広げることができるようにしたい。

① 手立て1 目的をもって学びに向かう工夫

ア 目的意識をもって意欲的に学習できるようにするために、メディアとの関わり方について自覚化を図り、「想像力のスイッチ」を入れて捉え直して考えることができるようにする。

イ 自分の学びを自覚し、次に活かすために、「想像力のスイッチ」を入れて考えることのよさや友達の考えと比較して考えたことなどの視点で振り返るようにする。

② 手立て2 言語活動の質を高める工夫

ア 「想像力のスイッチ」を入れてこれまでの経験や知識を捉え直して考えをもてるようにするために、①共通の事例で考える②個別の事例で考える活動を設定する。

イ 自分の考えを広げるために、読んで理解したことや考えとその理由について、ICTを活用して視覚化し、友達の考えと比較することができるようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ	① 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 C(1)オ ② 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 C(1)カ	① 積極的に文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習の見通しをもってメディアとの関わり方について伝え合おうとしている。

6 単元の指導計画（全7時間扱い）

次	時	学習活動	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点	【評価】〔評価方法〕
とらえよう	1	○ アンケートの結果や「もっと読もう」を読み、これまでの自分と情報との関わりについて振り返る。 ○ 今後の学習を意識しながら、「想像力のスイッチ」について話し合う。 ○ 学習課題を設定し、学習計画を立てる。	・ 振り返ることで、情報との関わり方について問題意識をもてるようにする。 ・ 「想像力のスイッチ」とはどのようなものか、感想を出し合い、関心を高めるようにする。 ◆ 目的意識をもって意欲的に学習できるようにするために、メディアとの関わりについて自覚化を図り、「想像力のスイッチ」を入れて捉え直して考えることができるようにする。（手立て1）	
ふかめよう	2	○ 文章のまとまりを捉え、筆者の伝えたいことを考える。	・ 文章を大きく三つのまとまりに分けて捉え、述べられていることをまとめ概略をつかむようにする。 ◆ 自分の学びを自覚し、次に活かすために、想像力のスイッチを入れて考えることのよさや友達の考えと比較して考えたことなどの視点で振り返るようにする。（手立て1）	【知識①】事例と事例に対する筆者の意見を整理し、筆者が考える「想像力のスイッチ」についてまとめているか確認する。〔記述〕
	3	○ 事例と意見の関係を押さえ、事例の効果や筆者の意図を考える。	・ 事例と意見の関係を話し合うようにする。 ・ 複数の事例を挙げて説明する効果や筆者の意図を考えるようにする。	
	4	○ 筆者が考える「想像力のスイッチ」についてまとめる。	・ 比喩表現の効果や「想像力のスイッチを入れよう」という表現をした意図について考えるようにする。	
まとめよう	5 本時	○ 「想像力のスイッチ」を入れて、自分の経験や知識を捉え直して考える。 ○ よりよいメディアとの関わり方について自分の考えを文章に書く。	・ 「想像力のスイッチを入れること」について、自分の経験を捉え直して考えるようにする。 ・ 「もっと読もう」を参考にし、メディアの特徴からどんなスイッチを入れて考えることが必要かを考えるようにする。 ◆ 「想像力のスイッチ」を入れてこれまでの経験や知識を捉え直して考えをもてるようにするために、①共通の事例で考える②個別の事例で考える活動を設定する。（手立て2）	【思考①】筆者の主張や事例の効果について理解したことに基づいて、メディアとの関わり方について自分の考えをまとめているか確認する。 〔観察・記述〕
	6			
ひろげよう	7	○ 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 ○ 共有した内容を振り返り、取り入れたい友達の考えをまとめる。 ○ 単元の学習を振り返る。	・ 互いの考えの共通点や相違点を見付けながら読み、伝え合うようにする。 ・ 今後メディアと関わる際に取り入れたい友達の考えについてまとめるようにする。 ◆ 自分の考えを広げるために、読んで理解したことや考えとその理由について、ICTを活用して視覚化し、友達の考えと比較することができるようにする。（手立て2）	【思考②】友達と意見や感想を共有し、今後のメディアとの関わり方について自分の考えを広げているか確認する。 〔観察・記述〕 【態度①】積極的に文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習の見通しをもってメディアとの関わり方について話し合おうとしているか確認する。 〔観察・記述〕
時間外		・ 毎日の音読 ・ 関連図書の読書 ・ 関連動画の視聴		

7 本時の指導

(1) 目標

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

(2) 本時の評価規準

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。【思考・判断・表現①】

具体的な子どもの姿	Bに至るための支援
筆者の主張とこれまでの経験やメディアの特徴を結び付けながら考え、言葉で表現している。	1つの場面について、どんな「想像力のスイッチ」を入れたか、どんな考え方ができたかを全体で交流する。 - 導入時に挙げたメディアとの関わりで困ったことなどを捉え直したり、「もっと読もう」を読んだりして具体的に考えるようにする。
授業での姿 - 前に～なことがあった。あのとき、「〇〇〇〇」のスイッチを使って～と考えてみればよかった。 - よくインターネットを使って調べられるけれど、使う時は～という考え方を大切にしていきたい。	

(3) 展開

	学習活動 ・ 子どもの反応	◆研究に係わる手立て
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。	◆指導上の留意点 評価 [評価方法] ・ これまでの読みを活かして考えることを確認する。
展開 32分	筆者の主張を受けて、自分の経験を振り返ろう 3 具体的な場面について、「想像力のスイッチ」を入れて考える。 7月に地震で大災害が起こるということがあったけれど、4つのスイッチを入れて考えてみると……。 4 考えたことや感じたことを交流する。 - 同じ話題でも、どの「想像力のスイッチ」を入れて考えるかで感じ方も変わる。 - 情報の受け取り方は、みんな同じではないことが分かった。 5 「想像力のスイッチ」を入れることについて、自分の経験をもとに考えたことをメモする。 - 友達とのメッセージのやりとりで、思い込みで誤解をしてしまったことがある。「他の見方もないか」と考えてみれば……。 6 メモしたことを交流する。 - 同じ「事実かな、印象かな」のスイッチを使って考えている。インターネットでの情報は特に事実か確かめることが大切だ。 「他の見方もないかな」のスイッチは、生活の中で役に立ちそうだな。	・ 「想像力のスイッチ」を入れて考えることへ具体的にイメージがもてない子どもがいることも考えられるので、個別に考える前に、学級全体で同じ場面について考えたことを交流し、考えがもてるようにする。 ・ 筆者の主張をふまえた振り返りの視点 ①「まだ分からないよね」(㊦く断するな) ②「事実かな、印象かな」(㊩のみにするな) ③「他の見方もないかな」(㊨たよるな) ④「何がかくれているかな」(㊧かだけ見るな) ・ 「自分の思い込みで判断して失敗したこと」「もっとちがう考え方があったなあと後悔したこと」など具体的な場面を提示し、これまでの経験を振り返るようにする。 ・ ICTを活用し、メモしたことを交流できるようにする。 ◆ 「想像力のスイッチ」を入れてこれまでの経験や知識を捉え直して考えをもてるようにするために、①共通の事例で考える②個別の事例で考える活動を設定する。(手立て2) 【思考・判断・表現①】【観察・記述】
終末 8分	6 学習の振り返りをし、次時の見通しをもつ。	・ メモに書いたことを基に、自分の考えをまとめることを確認する。 ◆ 自分の学びを自覚し、次に活かすために、想像力のスイッチを入れて考えることのよさや友達の考えと比較して考えたことなどの視点で振り返るようにする。(手立て1)

【期待する振り返りの例】

- 「事実かな、印象かな」のスイッチを入れて考えてみるのが大切だと思った。なぜなら、事実を目を向けると、正しい情報に目を向けることができるからだ。根拠にする事例は複数の方が説得力があるから、2つの事例を使いたいと思う。
- 〇〇さんのメールのやりとりの事例が分かりやすかった。自分ももう少し事例を具体的に書けそうだ。自分の普段の生活の中にも、「想像力のスイッチ」を使える場面がいくつもあると思った。

第6学年 国語科学習指導案

日 時 令和7年11月19日(水) 6校時

児 童 6年1組 23名

授業者 佐藤 裕子

1 単元名 筆者の考えを読み取り、テーマについて考えを述べ合おう

2 学習材名 「考える」とは

考えることとなやむこと/考えることを考え続ける/考える人の行動が世界を変える(光村図書6年)

3 単元の目標

(1) 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。 [知識及び技能] (1)カ

(2) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

[思考力、判断力、表現力等] C(1)オ

(3) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。

[思考力、判断力、表現力等] C(1)カ

(4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

4 単元について

(1) 子どもの実態

「笑うから楽しい/時計の時間と心の時間」では、筆者の主張とそれを支える事例を捉え、自分の知識の経験と関連させながら読んだ。また、「インターネットでニュースを読もう」では、情報源を確かめ、複数の情報を組み合わせて考える学習を行った。『鳥獣戯画』をよむでは、筆者の考え方と資料や言葉の使い方の工夫を捉えた。子ども達は、筆者の主張や事例を捉えるなど既習事項に着目しながら、自分なりに表現することはできる。しかし、考えを形成することで満足し、友達と意見や感想を共有し、自分の考えを広げることについては、まだ不十分である。

(2) 学習材について

本教材は、「考える」ということをテーマにして、異なる立場の筆者が考えを述べている。一つのテーマに対して、賛成と反対の立場から論を展開しているものではなく、筆者それぞれの立場にふさわしい着眼点から考えがまとめられている。単元の言語活動を通して、多面的な思考を促していくことのできる教材である。

(3) 指導にあたって

単元に位置付ける言語活動

複数の文章を読み、考えたことを伝え合う。

[思考力、判断力、表現力等] C(2)ア

3つの説明文の構成を捉え、主張を読み取る必要がある。そして、自分の考えをもつためには、自分の経験と結び付けて考える必要がある。その際、複数の説明文の共通点や相違点を整理することにより、共通のテーマを読み取ることができる。と考える。

今までの説明文の学習では、6時間程度で一つの説明文を読み取ってきた。今回は、読み取りに時間をかけられないため、6年生の学びのまとめとして今までの読みの力が発揮できるように掲示物などにより視覚的な支援もしていきたい。

① 手立て1 目的をもって学びに向かう工夫

ア 学習のゴールを見通すことができるようにするために、単元導入時に3人の筆者の題名を比較したり感想を交流したりする。また、学習のゴールを児童の言葉から引き出すようにする。

イ 学びの達成感につながることをできるようにするために、単元開始時と終末時の感想を比較したり、教師が子どもの振り返りを価値付けたりする。

② 手立て2 言語活動の質を高める工夫

ア 自分の考えを形成するために、特に印象に残ったこととその理由、自分の知識や経験と比べて気付いたことなどの要素に着目し、子ども達が選択しながら、考えをまとめることができるようにする。

イ 筆者毎に色分けをした学習シート(ロイロノート)を用いることで、自分の考えを広げていけるようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ	① 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。C(1)オ ② 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。C(1)カ	① 粘り強く文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

6 単元の指導計画（全6時間扱い）

次	時	学習活動	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点	【評価】〔評価方法〕
とらえよう	1 本 時	○ 「考える」とは何かを考える。 ○ 教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。	教材文を読む前に、一度、「考える」とは何かを考えておくことで、単元終了後に考えが広がることを実感できるようにする。 ◆ 学習のゴールを見通すことができるようにするために、単元導入時に3人の筆者の題名を比較したり感想を交流したりする。また、学習のゴールを児童の言葉から引き出すようにする。（手立て1）	教材文を読んで抱いた「問い」を基に学習のゴールを設定し、学習計画を立てようとしているか確認する。
ふかめよう・まとめよう	2	○ それぞれの文章で筆者が最も伝えたいことを考える。	教科書P65「主張と事例」の学習を振り返り、それぞれの筆者の主張を捉えることができるようにする。 ◆ 学びの達成感につながることをできるようにするために、教師が子どもの振り返りを価値付ける。（手立て1）	【知識①】筆者がどのように自分の考えを伝えようとしているか、文章の特徴について理解しているか確認する。 〔記述・発言〕 【思考①】筆者の主張と自分の知識や経験と比べたり、文章を読んで得た視点やものの見方を踏まえたりしながら、考えたことをまとめているか確認する。〔記述〕
	3 ・ 4	○ 筆者がどのように自分の考えを伝えようとしているのか、文章の特徴を明らかにする。	何度も出てくる言葉や取り上げられている事例などに着目し、筆者の書き方の特徴が表れる表現を見付けることができるようにする。	
	5	○ 3つの文章を読んで考えたことをまとめる。	◆ 自分の考えを形成するために、特に印象に残ったこととその理由、自分の知識や経験と比べて気付いたことなどの要素に着目し、子ども達が選択しながら、考えをまとめることができるようにする。（手立て2） 筆者毎に色分けをした学習シート（ロイロノート）を用いる。	
ひろげよう	6	○ 自分の考えを伝え合い、考えを広げたり深めたりする。 ○ 学習を振り返る。	◆ 筆者毎に色分けをした学習シート（ロイロノート）を用いることで、自分の考えを広げていくようにする。（手立て2） - 自分の考えを深めるために、言葉の量を制限し、自然に質問できるようにする。 - 単元の学びを振り返るとともに、身に付けた力を押さえ、メタ認知できるようにする。 ◆ 単元開始時の感想と比較することで、学びの達成感をもつことができるようにする。（手立て1）	【思考②】友達と考えを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりしているか確認する。 〔記述・観察〕 【態度①】自分の考えをまとめ単元のゴール『自分の「考える」を伝え合う』に沿って伝え合おうとしているか確認する。 〔記述・観察〕
時間外		- 並行読書 2組と交流		

7 本時の指導

(1) 目標

教材文を読んで抱いた「問い」を基に学習のゴールを設定し、学習計画を立てることができる。

(2) 本時の評価規準

教材文を読んで抱いた「問い」を基に学習のゴールを設定し、学習計画を立てている。

【主体的に学習に取り組む態度①】

具体的な子どもの姿	Bに至らせるための支援
教材文を読んで抱いた「問い」を基に学習のゴールを設定し、学習計画を立てようとしている。	内容面や対象などを考えることができるように、これまでに説明文で学んできた事柄を振り返り、ゴールのイメージをもつことができるようにする。
授業での姿 自分の経験とつなげると考えをまとめられそう。	

(3) 展開

	学習活動 ・ 子どもの反応	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点 評価 [評価方法]
導入 5分	1 3つの説明文の筆者や題名について比較する。 ・ 3つとも題名に「考える」とある。 2 「考える」とは何か考える。	- 筆者について興味をもてるように、簡単にプロフィールを紹介する。その後、題名を提示し、共通点から「考える」というキーワードに気付くようにしたい。 - テキストマイニングを使い、子ども達の「考える」を整理する。
展開 35分	3 学習課題を確かめる。 自分たちで学習のゴールを設定し、計画を立てよう 4 3つの教材文を各自で読み、最も印象に残ったのは、どの文章か考える。 ・ ぼくは、「考えることとなやむこと」が気になりました。わけは、「それは、考えているだけだよ。悩んでいるだけだね。」の文章が印象に残ったからです。 5 交流する友達を選び、自分の感想を伝える。 6 学習のゴールを設定する。 「考える」ことについてまとめ、2組のみんなと交流会をしよう。 7 単元の目標を基に、学習計画を立てる。 ① 学習のゴール ・ 学習用端末で自分の『「考える」とは』を表現したい。主張なども入れないと。 ・ これまでも、学習用端末でまとめた。今度は、誰に伝えようか。 ② 計画 ・ すぐに書けないから、文章を詳しく読みたい。筆者の考え（主張）とか。	- 考えをもつことができない児童には、気になった言葉を聞き出したり、友達の考えを参考にしたりしてもよいと伝える。 - ロイロノートを使い、選んだ文章を色分けすることで自分や友達の考えがはっきりできるようにする。 - 子どもから出てきた言葉を生かしながら、選択肢を用意しておく。 ◆ 学習のゴールを見通すことができるようにするために、単元導入時に3人の筆者の題名を比較したり感想を交流したりする。また、学習のゴールを児童の言葉から引き出すようにする。（手立て1） 【主体的に学習に取り組む態度①】[発言・記述]
終末 5分	8 学習の振り返りをする。 ・ 自分の考えをどのようにまとめようかな。 ・ 筆者の考えとか事例について、見付けな	◆ 達成感をもつことができるようにするために、子どもの学習でのつぶやきや振り返りの言葉を価値付ける。（手立て1）
【期待する振り返りの例】 - 自分の考えを書くのだから、文章の構成に自分の主張を入れなければならないな。 - 友達は、どのようにまとめるのだろう。聞いてみたい。		

第6学年 国語科学習指導案

日時 令和7年11月19日(水) 6校時

児童 6年2組 24名

授業者 岩渕 宏紀

1 単元名 筆者の考えを読み取り、テーマについて考えを述べ合おう

2 学習材名 「考える」とは

考えることとなやむこと/考えることを考え続ける/考える人の行動が世界を変える(光村図書6年)

3 単元の目標

- (1) 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。 [知識及び技能] (1)カ
(2) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)オ
(3) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広めることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)カ
(4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

4 単元について

(1) 子どもの実態

子ども達は、一学期に説明的文章「笑うから楽しい/時計の時間と心の時間」の学習で、筆者の主張とそれを支える事例の関係から文章全体の構成を学んでいる。また、「インターネットでニュースを読もう」の学習で、情報源を確かめ、複数の情報を組み合わせて学習することを学んだ。そして、『鳥獣戯画』を読むの学習では、筆者の考え方や資料や言葉の使い方を学んでいる。

しかし、考えを一度形成した後に、友達と意見や感想を共有することを通して、自分の考えをさらに深めたり広げたりすることは、まだまだ不十分である。

(2) 学習材について

本教材は、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」そして、「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること」が重点となる目標である。そのために、自分の考えを持ち、文章を読んで理解したことを基に、グループで伝え合う活動が設定されている。筆者の主張を捉え、自分の知識や経験と結び付け、自分の意見や感想をもつ。さらに、グループで互いの意見や感想の共通点や相違点等を明らかにしたり、互いの考えのよさを見付け認め合ったりするために適した教材である。

(3) 指導にあたって

単元に位置付ける言語活動

中学生に向けて、「考える」ことについて、自分の考えを学級や学年の友達と伝え合う。

[思考力、判断力、表現力等] C(2)ア

本単元では、同じ「考える」のテーマについて書かれた3つの文章を読み、自分の考えをまとめ、その考えを友達と伝え合う活動を設定する。まず、子ども一人一人が、文章と対話し筆者の主張を理解した上で、これまでの自分の知識や経験と比較したり、筆者の考えに共感することを明らかにしたりすることを通して、自分の考えを形成できるようにする。さらに、友達の考えに触れ自分の考えを深めたり広げたりできるようにするために、グループで対話をする。自分の知識や経験を根拠にしたり、筆者が述べていることを引用したりすることを通して、聞き手側にもよりよく分かるような文章で伝えられるようにする。そして、自分の考えが単元の初めと終わりで変容する様子をデジタル機器を活かして記録し、可視化することで自分や友達の学習状況を確認できるようにしたい。

① 手立て1 目的をもって学びに向かう工夫

ア 進んで学習を進めることができるようにするために、中学校生活を見通し、児童の思いや言葉を引き出して学習のゴール(『自分の「考える」について伝え合おう』等)をつくる。

イ 自分の学びを自覚できるようにするために、ICTを活用することを通して、単元導入時と終末時の「考える」についての自分の考えを記録したり言葉を比較したり、指導事項に関わる児童の振り返りを価値付けたりする。

② 手立て2 言語活動の質を高める工夫

ア 自分の考えを形成するために、論の展開の仕方や構成の工夫、挙げている事例、表現の工夫等の要素に着目し、自分の知識や経験を結び付けてまとめることができるようにする。

イ 自分の考えを深めたり広げたりするために、考えの形成に用いた要素同士を比較し、互いの考えのよさや違いに気付く活動を取り入れる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ	① 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 C(1)オ ② 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広めている。 C(1)カ	① 進んで複数の文章から、共通点や相違点を読み、学習課題に沿って、自分の考えまとめ、伝え合おうとしている。

6 単元の指導計画（全7時間扱い）

次	時	学習活動	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点	【評価】〔評価方法〕
とらえよう	1	- 教科書 p 205 を見て、「考える」とは何かを考える。 - 教材文を読み、「問いをもと」、「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。	- 教材文を読む前に、「考える」とは何か、今の自分の考えをもつ。 - 教科書 p 212 「問いをもと」で出された問いや考えと、「目標」とを関連付けながら、単元の目標を設定する。 ◆ 中学校生活を見通し、学習のゴールを児童の思いや言葉を引き出し、進んで学習を進めることができるようにする。（手立て1） ◆ ICT を活用し、単元導入時と終末時の「考える」についての自分の考えを記録したり語彙を比較したり、指導事項に関わる児童の振り返りを価値付けたりする。（手立て1）	
ふかめよう	2	- それぞれの文章で筆者が最も伝えたいことを考える。 - 自分の中心教材を決める。	- 教科書 p 65 「主張と事例」の学習を振り返る。 3つの文章から、筆者の主張を読む。 ◆ 自分の考えを形成するために、論の展開の仕方や構成の工夫等、挙げている事例、表現の工夫等の要素に着目し、自分の知識や経験を結び付けてまとめることができるようにする（手立て2）	【知識①】筆者がどのように自分の考えを伝えようとしているか、文章の特徴について理解しているか確認する。〔記述〕 【思考①】3人の筆者の論の展開の仕方や構成の工夫、挙げている事例、表現の工夫等の要素に着目し、「考える」ことについて自分が考えたこと（印象に残ったこと、自分の知識や経験と比較して気付いたこと、自分の考えとの共通点や相違点等）を文章にまとめているか確認する。〔記述〕
	3 4	筆者がどのように自分の考えを伝えようとしているか、文章の特徴を明らかにする。	教科書 p 212 下段「言葉に着目しよう」を参考に、筆者の書き方の特徴が表れている言葉や表現を見付ける。	
	5	自分で選んだ中心教材を中心に、自分の考えをまとめる。	自分の知識や経験と比べたり、自分の考えとの共通点・相違点を考えたりしながら、文章を読んで考えたことをまとめる。	
まとめよう	6 本時	文章を読んでまとめた考えを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりする。	教科書 p 213 下段「伝え合いの例」を参考に、互いのものの見方や視点に着目し、交流する。 ◆ 自分の考えを深めたり広げたりするために、考えの形成に用いた要素同士を比較し、互いの考えのよさや違いに気付く活動を取り入れる（手立て2）	【思考②】友達と考えを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりしているか確認する。〔発言・記述〕 【態度①】進んで自分の考えをまとめ、学習課題に沿って友達と考えを伝え合おうとしているか確認する。〔記述・観察〕
ひろげよう	7	学習を振り返る。	「ふりかえろう」で単元の学びを振り返る。「たいせつ」、「いかそう」で単元で身に付いた力を確かめる。	
時間外		1組と交流する（単元終盤で） - 毎日の音読（家庭学習） - 関連図書の読書（並行読書）		

7 本時の指導

(1) 目標

3つの文章を読んでまとめた考えを伝え合い、自分の考えを深めたり広めたりすることができる。

(2) 本時の評価規準

3つの文章を読んでまとめた考えを伝え合い、自分の考えを深めたり広めたりしている。

【思考・判断・表現②】

具体的な子どもの姿	Bに至るための支援
グループで交流し、「考える」ことについて、友達と考えを伝え合い、自分の考えを深めたり広げたりしている。	3～4人のグループ等で話し合う。その際、形成した自分の考えの要素（特に印象に残ったこととその理由、自分の知識や経験と比較、自分の考えとの共通点や相違点）を比較することを通して、互いの考えのよさを認め合ったり、自分との違いから考えの深まりを感じたりできるようにする。
授業での姿 - グループで交流して、〇〇さんの考えと同じだったのより大切だと考えるようになった。 〇〇さんの考えも聞いて、考えることについて、そういう考え方もあると知ったので、自分も生かしていきたい。	

(3) 展開

	学習活動 ・ 子どもの反応	◆研究に係わる手立て
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 自分の考えを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりしよう。	◆指導上の留意点 【評価【評価方法】】 - 単元のゴール（目標）を確かめる。 - 学習計画から本時の課題を設定する。 - 単元導入時の「考える」ことについての自分の考えを想起する。
展開 30分	3 自分の考えを伝え合う。 - 同じ作者を選んだ同士で伝え合いたい。 - 形成した考えを伝える。（例）私は、中満さんの「よりよい世界を築くために、何が大切か行動することが重要だ」ということから（①）、何か問題を解決するために必要なことを考えて行動することが考えることだと思った。（②）それは、スポ少の試合で勝つためにどういう練習をすれば勝てるのか考えてやってみたことがあった。その練習を続けたことで勝てるようになったことがあったからです。（③） - 違う作者を選んだ同士で伝え合いたい。 4 共有することを通して、考えの変化や深まりについて書く。 （例）「考える」ことを、初めはじつくりと考えることとしか考えていなかったけど、鴻上さんの文章を読んだり、グループで交流をしたりして、やるべきことをはっきりさせることだと思った。〇〇さんも考えが同じだったので、やるべきことをはっきりさせて取り組むことは、より大切だと考えるようになった。中学校では、学習も部活動もあるので、どちらもしっかり取り組めるようによく考えて生活したい。	- 子どもの思い・考えを基にグループをつくる。 - 児童同士の考えを比較しやすくするために、同じ作者を選んだ同士→違う作者を選んだ同士と共有を進めるようにする。 - 伝え合うときの視点を示す。 ①根拠となる筆者の考え ②自分の考え ③理由付け - 必要に応じて、伝え合う言葉を提示する。（教科書 p 370 参照） - ロイロノートにまとめた「考える」ことについての考えを発表する。 - ロイロノートの画面を児童と共有し、互いにメモをしたり質問し合ったりすることを認める。 ◆ 自分の考えを深めたり広げたりするために、考えの形成に用いた要素同士を比較し、互いの考えのよさや違いに気付く活動を取り入れる。（手立て2） - 単元の初め→中心教材の文章から→友達と共有の学習過程で、どのように考えが変容したか振り返られるようにする。 - 自分の考えを再構成できるように、まとめる時間を保障する。 ◆ ICT を活用し、単元導入時と終末時の「考える」についての語彙を比較することを通して、自分の考えの変容を実感できるようにする。（手立て1） 【思考・判断・表現②】【発言・記述】
終末 10分	5 学習の振り返りをする。 6 次時の活動を確かめる。	- 本時の活動を振り返る。 - 次時に、単元全体を通して、どのような力が付いたかを振り返り、自分の学びを価値付ける時間をとることを知らせる。

【期待する振り返りの例】

- 「考える」ことについて自分と同じ考えだったけど、友達と考えを交流することで、根拠（理由）にすることが違っていて、そういう考え方もあった。
- 「考える」ことについて、いろいろな文章を読んだり、友達と話し合ったりして、自分の考えをより強くもつことができた。なぜなら、自分と似た考えの人が多かったからだ。

特別支援学級（知的・病弱・自・情） 自立活動学習指導案

日 時 令和7年11月19日（水）5校時

子ども ひまわり1・2・3組 8名

（知的学級 3名、自閉症・情緒学級4名、
病弱・身体虚弱学級 1名）

指導者 T1 鈴木 理香 T2 千葉 陽子

1 題材名 なかよし大作戦！

2 題材の目標

(1) 相手を意識し、自分の考えをもって伝えることができる。【コミュニケーション6】

(2) 仲よく交流するために、相手の気持ちや状況に応じて活動に参加することができる。

【心理的な安定2】 【人間関係の形成3】

3 題材について

(1) 子どもの実態

本校の特別支援学級の自立活動は、学級ごとの指導と、3学級合同の指導を組み合わせて行っている。3学級合同の自立活動では、歓迎会や送別会、学習成果発表会などを行っており、落ち着いた雰囲気の中で活動している。また、通常学級の話し合いでは自分の考えを話すことができなくても、3学級合同の話し合いの場合は、支援を受けて、考えを話したり一人で発表したりすることができる子どもも多い。一方、語彙が少なく、促されてもなかなか話せない子どももいる。また、自分の意見が通らないと気持ちが不安定になる子どももいる。

学級	子ども	題材に関する実態	題材における目標
知的	A児 (3年)	・ 言葉や話し方が分かって発表することができる。語彙が少なく、言葉でのやり取りが難しいことがある。	・ 支援を受けながら、自分の考えを話すことができる。 【6-1】 【6-4】
	B児 (6年)	・ 自分の考えをもつことができる。自分の考えを話すことに不安を感じやすいため、話せないことがある。	・ 小集団の中で、自分の考えを話すことができる。 【6-5】 【3-4】
	C児 (6年)	・ 進んで考えを話したり、相手の話に反応しながら聞いたりすることができる。話題がずれたり話を遮って話してしまうこともある。	・ 話を最後まで集中して聞いたり、相手のことを考えて話したりすることができる。【6-5】 【2-1】
情緒	D児 (2年)	・ 慣れた集団の中で、活動を楽しむことができる。聞かれたことに対して、考えをまとめるまでに時間がかかる。	・ 教師と一緒に考えて自分の考えや思ったことを話すことができる。 【6-4】
	E児 (3年)	・ 聞かれたことに素早く反応し、自分の意見や考えを話すことができる。自分が思っていることと異なると、機嫌が悪くなることもある。	・ 自分の思いと異なっても、折り合いをつけて参加することができる。 【2-1】 【6-5】
	F児 (5年)	・ 相手の立場や好みを考えて意見を言うことができる。理由を話すときは、支援が必要である。	・ ひまわり学級全体の中でも、自信をもって自分の考えを話すことができる。【2-1】 【6-5】
	G児 (5年)	・ 学級の中では、自分の考えを話すことができる。自分の好みにとらわれた意見を出しがちである。	・ 相手の考えを聞き、自分の意見を調整して話すことができる。 【2-1】 【6-5】
病弱	H児 (6年)	・ 小集団で、時間がかかっても自分の考えを話すことができる。交流学級での発表では、緊張で涙ぐむことがある。	・ 小集団の中で、進んで、自分の考えを話すことができる。 【2-1】 【6-5】

(2) 題材について

本題材は、本校の交流籍の子どもと「なかよし交流会」を開催するための企画・立案、計画・準備、交流会の開催という構成で学習を進める。交流会は毎年開催しており、子どもにとっては見通しがもちやすく、これまでの経験を生かして自分たちで計画や準備ができる学習であると考え。また、友達を招待して行う活動であることから、相手に楽しんでもらいたいという意識をもちやすく、協力し合って役割を果たしたり、相手の考えを受け止めて自分の考えを伝えたりする力を高めると考えた。

(3) 指導にあたって

題材に位置付ける言語活動

交流籍交流のために、招待状を作ったり活動内容の工夫について話し合ったりする。

子どもたちは、今まで経験してきた交流会やお楽しみ会などの経験を振り返り、交流会の内容や役割について話し合いながら準備を進めていく。その際、子どもたちが主体となって活動できるよう、活動の見通しや各時間の学習のポイント、決まった内容を視覚的に示していく。話し合う際には、話し合いのポイントを示したり、どの子どもも自分の考えを表現できるよう実態に応じて手立てを工夫したりする。また、「なかよし交流会」に向けて、コミュニケーションにおける個々の目標の振り返りを行うことで、自分の成長や集団での達成感を実感できるようにする。

① 手立て1 目的をもって学びに向かう工夫

ア 一人一人が目標をもって活動に取り組めるように、導入の段階で、相手に喜んでもらえるような交流会のイメージを示す。

イ よい交流会に近付いたことが実感できるように、指導者との対話を通してめあてを振り返る。

② 手立て2 言語活動の質を高める工夫

ア 話し合いの視点や考えた内容を視覚化して掲示する。

イ 自分の考えをまとめたり広げたりできるように、意図的にペアを組んだり、指導者が子どもの発言をつないだりする。

4 題材の指導計画と評価（全7時間扱い）

時	学習活動	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点
1	○ 学習の見通しを立てる。 ・ なかよし交流会の内容を考える。 ・ 目標を立てる。	・ 昨年度の様子を提示し、活動のイメージを捉えることができるようにする。 ・ 一人一人の目標を視覚化できるよう、カード等を用意する。 ◆ 一人一人が目標をもって活動に取り組めるように、導入の段階で、相手によるこんでもらえるような交流会のイメージを示す。 （手立て1） ・ 相手を意識した内容かという視点を与える。
2	○ 招待状を作る。	・ 一人一人の書く内容を分担し、内容を絞って書けるようにする。
3	○ ゲームのルールや役割分担を決める。	・ 話し合いはペアを基本とし、答えられない場合は、あらかじめ考えていた方法から選択して表現するように促す。 ◆ 自分の考えをまとめたり広げたりできるように、意図的にペアを組んだり、指導者が子どもの発言をつないだりする。 （手立て2）
4 ・ 5本 時	○ ゲームの練習をする。 ○ ゲームについて改善点を話し合う。	・ 改善点を客観的に見るができるよう、動画を撮影して見合ったり、教師が見取ったことを伝えたりする。 ・ ゲームをする時間、やり方等、考えるとよい点を示す。 ◆ よい交流会に近づいたことが実感できるように、指導者との対話を通してめあてを振り返る。 （手立て1） ◆ 話し合いの視点や考えた内容を視覚化して掲示する。 （手立て2）
6	○ なかよし交流会をする。	・ よい交流会になるように話し合った内容を掲示し、がんばるポイントを確認する。 ・ みんなが安心して楽しむため「ふわふわ言葉」を意識できるようにする。
7	○ 振り返る。 ・ 手紙を書く。	・ 手紙の内容について、「相手も喜ぶかな」と視点を示すことで、相手意識をもって書けるようにする。

5 本時の指導（5／7時間）

(1) 全体目標

- ・自分の考えを友達に伝えたり、友達の意見を受け入れたりできる。【コミュニケーション6】
- ・仲良く交流するために、交流する相手を意識してゲームのルールや伝え方について考えることができる。【心理的な安定2】【人間関係の形成3】

(2) 個別目標と評価規準

学級	子ども	個別目標	具体的な子どもの姿（評価規準） 評価方法	支援
知的	A児 (3年)	支援を受けながら、自分の考えを伝えることができる。	自分の考えを話している。 <u>発言</u>	・自分の考えを話すことが難しい場合は、あらかじめ考えていた方法から選択するように促す。
	B児 (6年)	小集団の中で、自信をもって自分の考えを話すことができる。	小集団の中で、自分の考えを話している。 <u>発言</u>	・発表の前に、話す内容を一緒に考える。
	C児 (6年)	相手のことを考えて聞いたり話したりすることができる。	相手のことを考えて、聞いたり話したりしている。 <u>観察・発言</u>	・話合いの前に、話し合う時のマナーや話合いの目的を確認する。
情緒	D児 (2年)	自分の考えを話すことができる。	ゲームについての感想やよくなるためのアイデアを話している。 <u>発言</u>	・話せない場合は、選んで発表できるように、いくつか選択肢を準備する。
	E児 (3年)	友達の意見を受け入れて参加することができる。	相手と考えが違って、イライラせずに参加している。 <u>観察</u>	・イライラした時にどうすればいいか、事前に約束する。
	F児 (5年)	話合いで自分の考えを伝えることができる。	グループ内で話す時に、ゲームがよくなるための考えを伝えている。 <u>発言</u>	・話す内容について肯定的に受け止めて、話せるようにする。
	G児 (5年)	友達の考えを聞き、自分の意見を調整して話すことができる。	友達の意見を受け入れたり、怒らないで参加したりしている。 <u>観察</u>	・参加の仕方について事前に約束したり、気持ちの切り替えができたことを認めたりする。
病弱	H児 (6年)	小集団の中で、進んで自分の考えを話すことができる。	小集団の中で、進んで自分の考えを話している。 <u>発言</u>	・安心して話せるように、話す内容のヒントを与えたり、話す順番を最後にしたりする。

(3) 展開

	学習活動 ・ 子どもの反応	◆研究に係わる手立て ・ 指導上の留意点	具体的な支援
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習内容、学習課題を確認する。	- 活動の流れを確認し、本時の見通しがもてるようにする。 - 全体のめあてと、前時に決めた個人のめあてを確認する。	(全体) 見通しをもてるように、活動の流れ、時間配分を掲示する。
	もっとみんなで楽しめるゲームにするためのアイデアを出しあおう		
展開 30分	3 ゲームのお試し練習をする。 4 もっと楽しいゲームにするために話し合う。 5 もう一度ゲームを行う。	- 来てくれた友達が楽しめるゲームにするという視点を示してからゲームを行う。 - ゲームをする時間、やり方等、見直すポイントを示す。 - 話し合いのペアは、指導者が意図的に組む。 - 安心して自分の意見が出せるように、前時の話し合いの内容を意識させる。 - 活動している様子の動画を見て、改善点に気付けるようにする。見付けられない時には、教師が気付いたことを伝える。 ◆話し合いの視点や考えた内容を視覚化して掲示する。(手立て2) - 改善ポイントを意識しながらゲームができているか、二組に分かれてゲームの様子を見合うようにする。	(全体) ゲームをしている場面を録画し、振り返る材料にする。 (全体) 話し合った内容についてペアごとに意見をボードに書く。 (A児) 発問に対して答えられない時には、教師がいくつかの選択肢を準備する。 (D児) 話せない場合は、選んで発表できるように、いくつかの選択肢を準備する。
終末 10分	6 学習の振り返りをし、交流会への意欲を高める。	- 一人一人の実態に応じた振り返りカードを使用し、個人のめあてや全体のめあてについて振り返る。 ◆ よい交流会に近付いたことが実感できるように、指導者との対話を通してめあてを振り返る。(手立て1) - よい話し合いができたこと、それにより楽しいゲームになったことを称賛し、本番に向けての準備等を確認する。	(A児) 達成度を表情マークから選ぶ。
〔期待する振り返りの例〕 - みんなの前で話すことをがんばった。交流会でよろこんでもらいたい。交流会では、なかよく交流したい。 - 自分の考えと違って、友達の意見をしっかり聞いて話し合うことができた。			

